



HDDナビゲーション内蔵 HDD / DVD / ワンセグ 7.0 WVGA 1DIN-AVシステム

AVN 078HDmkII

取付説明書

090003-31120700

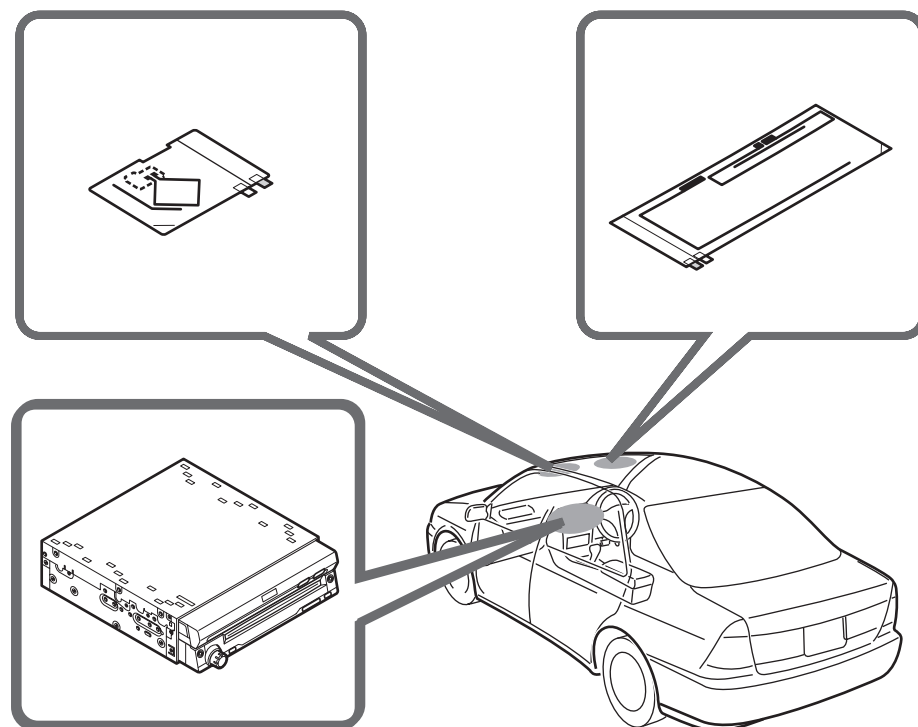
お客さまへのお願い

- 取り付けおよび接続を行う前に、必ずこの説明書をよくお読みのうえ、正しく作業を行ってください。
- 指定以外の取付方法や指定以外の部品を使用すると、事故やケガの原因となる場合があります。
- 本機の取り付けには、専門技術と経験が必要です。お買い上げの販売店での取り付けをお勧めします。
- 安全運転のため、ご使用前に「取扱説明書」、「取付説明書」をよくお読みうえ、正しくお使いください。
- 「取扱説明書」、「取付説明書」をお読みにになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

ー販売店様へー

取り付け、接続作業が完了しましたら、この取付説明書をお客様へお渡しください。

取付概要図



FUJITSU TEN

●構成部品

作業前に構成部品が揃っているか、汚れや傷がないか確認してください。

●本体関係

①メインユニット ×1	②接続コード (16P) ×1	③接続コード (20P) ×1
④接続コード (16P) ×1	⑤接続コード (3P) ×1	⑥ラジオコード ×1
⑦皿ねじ (赤色) (M4×6) ×4	⑧平頭ねじ (赤色) (M4×6) ×4	⑨座金一体ねじ (青色) (M4×3) ×4
⑩バンドクランプ ×4	⑪ハーネス固定テープ ×3	⑫ショートコネクタ ×3
⑬スタッドボルト (M4, M5) ×1	⑭ゴムブッシング ×1	

●フィルムアンテナ関係

⑮GPS用フィルムアンテナ (左) ×1	⑯ワンセグ / FM VICS用フィルムアンテナ (右) ×1	⑰GPSアンテナコード ×1
⑱デジタルTVアンテナコード (右) ×1	⑲FM VICSアンテナコード (右) ×1	⑳アースシート ×1
㉑クリーナ ×1		

※その他の構成部品(取扱説明書、取付説明書、保証書などの資料類)

●作業の前に

- 取り付ける前に構成部品をご確認ください。
- 取り付けには、一般工具のほか、はさみやカッターナイフ、布きれが必要です。
- ねじやボルト、ナットの取り付けには、寸法の合う工具をお使いください。
- 別売の外部機器を接続する場合には、必ず指定品をお使いのうえ、各機器の取付説明書をよくお読みの上、正しく作業を行ってください。

●作業の進め方

- 1)バッテリーの⊖端子を外す
- 2)接続を確認する
- 3)フィルムアンテナを取り付ける
- 4)配線する
- 5)メインユニットを取り付ける
- 6)バッテリーの⊖端子を元に戻す
- 7)作動確認をする
- （接続のしかた）
- （システム接続例）
- （取付と配線）
- （取り付け後の作動確認）

●安全に正しくお使いいただくために

お客様や他の人への危害や財産への損害を未然に防止するために、以下の表示をしています。その表示と内容をよく理解してから本文をお読みください。

**警告**

この表示を無視して、誤った取扱をすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

**注意**

この表示を無視して、誤った取扱をすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

**！**：しなければならないことを表しています。

**○**：してはいけないことを表しています。

**！**：注意をしなければならないことを表しています。

●本機取り付けのために必ず守っていただきたいこと、知っておくと便利なことを下記の表示で記載しています。

**アドバイス**

この表示は、本機の故障や破損を防ぐために守っていただきたいこと、知っておくと便利なこと、知っておいていただきたい内容を示しています。

**警告**

**！**本機はDC12V アース車専用です。
大型トラックや寒冷地仕様のディーゼル車などの24V車での使用はしないでください。
火災の原因となります。

**！**取り付け作業前には、必ずバッテリーのマイナス端子をはずしてください。
プラスとマイナス経路のショートによる感電や怪我の原因となります。

**○**本機を次のような場所には取り付けしないでください。
本機を、前方の視界を妨げる場所や、ステアリング、シフトレバー、ブレーキペダルなどの運転操作を妨げる場所など運転に支障をきたす場所、同乗者に危険を及ぼす場所などには絶対に取り付けしないでください。交通事故や怪我の原因となります。

**△**車体に穴をあけて取り付ける場合は、注意して作業を行ってください。
車体に穴をあけて取り付ける場合は、パイプ類、タンク、電気配線などの位置を確認の上、これらと干渉や接触することがないように注意して行ってください。火災の原因となります。

**！**ドリル等で穴あけ作業をする場合は、ゴーグル等の目を保護するものを使用してください。
破片などが目に入ったりして怪我や失明の原因となります。

**○**車体のボルトやナットを使用して機器の取り付けやアースを取る場合は、ステアリング、ブレーキ系統やタンクなどの保安部品のボルト、ナットは絶対に使用しないでください。
保安部品を使用しますと、制動不能や発火、事故の原因となります。

**○**本機を分解したり、改造しないでください。
事故、火災、感電の原因となります。

**！**ヒューズを交換するときは、必ず規定容量(アンペア数)のヒューズを使用してください。
規定容量を越えるヒューズを使用すると、火災の原因となります。

**！**画面が出ない、音が出ないなどの故障状態で使用しないでください。
そのまま使用すると事故、火災、感電の原因となります。

**！**万一、異物が入った、水がかかった、煙が出る、変な匂いがするなどの異常が起きた場合は、直ちに使用を中止し、必ずお買い上げの販売店に相談してください。
そのまま使用すると事故、火災、感電の原因となります。

**○**エアバッグの動作を妨げる場所には、絶対に本機取り付けと配線をしないでください。
車両メーカーに作業上の注意事項を確認してから作業を行ってください。エアバッグ動作を妨げる場所に取付・配線すると誤作動を起こしたり、交通事故の際、エアバッグシステムが正常に動作しないため、怪我の原因となります。

**○**電源コードの被覆を切って、他の機器の電源を取ることは絶対に止めてください。
電源コードの電流容量がオーバーし、火災、感電の原因となります。

**！**接続したコードや使用しないコードの先端など、被覆がない部分は絶縁性テープ等で絶縁してください。
ショートにより火災、感電の原因となります。

**！**コード類は、運転操作の妨げとならないよう、テープ等でまとめておいてください。
ステアリングやシフトレバー、ブレーキペダルなどに巻きつくと事故の原因となり危険です。

**！**必ず付属の部品を指定通り使用してください。
指定以外の部品を使用すると、機器内部の部品を損傷したり、しっかりと固定できずに外れることがあり危険です。

**警告**

**△**車体のねじ部分、シートレール等の可動部にコード類をはさみ込まないように配線してください。
断線やショートにより、事故や感電、火災の原因となることがあります。

**！**取付説明書で指定された通りに接続してください。
正規の接続を行わないと、火災や事故の原因となることがあります。

**注意**

**！**本機の取付・配線には、専門技術と経験が必要です。
安全のため必ずお買い上げの販売店に依頼してください。誤った配線をした場合、車に重大な支障をきたす場合があります。

**○**雨が吹き込むところなどの水のかかるところや湿気、埃、油煙の多いところへの取り付けは避けてください。
本機に水や湿気、埃、油煙が混入しますと、発煙や発火、故障の原因となることがあります。

**○**しっかりと固定できないところや振動の多いところへの取り付けは避けてください。
本機が外れて運転の妨げとなり交通事故や怪我の原因となることがあります。

**○**直射日光やヒーターの熱風が直接当たるところなどへ取り付けしないでください。
金属部分が高温になり、火傷をする可能性があります。
また、本機の内部温度が上昇し、火災や故障の原因となることがあります。

**○**本機の通風孔や放熱板、ファンをふさがしないでください。
通風孔や放熱板、ファンをふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

**！**コードが金属部に触れないように配線してください。
金属部に接触しコードが破損して火災、感電の原因となることがあります。

**！**コードの配線は、高温部を避けて行ってください。
コード類が車体の高温部に接触すると被覆が溶けてショートし、火災、感電の原因となることがあります。

**○**コード類を決して途中で切断しないでください。
コード類には、ヒューズなどが付いている場合があるので、保護回路が働かなくなり、火災の原因となることがあります。

**○**電源用リード線をバッテリーに直接接続しないでください。
機器を動作させるための電流容量が不足して、バッテリーから直接、電源を取る必要がある場合はバッテリー専用の配線キットを使用してください。

**△**コード等の車内への引き込みは、十分注意してください。
雨、水の車内への浸入を防ぐためコード等の車内への引き込みには十分気をつけて作業を行ってください。車内に浸水すると、火災や感電の原因となることがあります。

**○**本機を車載用として以外は使用しないでください。
感電や怪我の原因となることがあります。

**！**本機の取り付け場所変更時は安全のため必ずお買い上げの販売店へ依頼してください。

取り外し、取り付けには専門技術が必要です。

取付と配線

アドバイス

- フィルムアンテナは、車載テレビシステム専用です。それ以外の用途には、使用出来ません。
- フィルムアンテナは、繊細な構造になっております。折り曲げたり、傷をつけないよう慎重にお取り扱いください。
- フィルムアンテナ及びコードをアルコール、ベンジン、シンナー、ガソリンなどの揮発性液体を使用して拭かないでください。
- フィルムアンテナは、必ずフロントガラス上部の指定された位置・寸法内に貼り付けてください。指定の場所以外へは、性能確保できませんので貼り付けないでください。
- フィルムアンテナを車のボディ、ピラー等の金属に近づけて貼り付けると受信感度が低下する場合があります。
- フィルムアンテナは、指定通りの貼り付けで性能が確保できるようになっています。左右逆に貼り付けると性能が低下する場合があります。
- 左ハンドル車でもフィルムアンテナ(左)(右)の貼り付け位置は、変わりません。
- フィルムアンテナは、一度貼り付けると貼り直できません。貼付位置を十分に確認して作業を行ってください。
- フィルムアンテナは、貼付位置の汚れ、水分、油分などをよく拭きとってから貼り付けてください。
- 気温が低い(20℃以下)時は、フィルムアンテナの粘着力の低下を防ぐため車内ヒーターやデフロスタースイッチをONにしてフロントウィンドウを暖めてから貼り付けてください。
- フィルムアンテナは、一部の地域において、テレビ、ラジオ等の送信アンテナ塔付近では、受信している周波数以外の電波の影響により、映像・音声に乱れが生じる場合があります。一部の車両において、フロントガラスの材質・表面処理等により、受信感度が落ちる場合があります。
- フロントガラスに「金属を蒸着メッキした熱反射ガラス」を採用した車種は、熱線だけでなく電波も反射するためフィルムアンテナの取り付けはできません。
- フィルムアンテナはワイパー動作やエアコン用モーターなどから出るノイズにより、テレビの映りが悪くなることがありますが故障ではありません。

フィルムアンテナ取付配線概要図

❗取付説明書の指示通りに作業されない場合、保安基準適合品として認められないことがあります。必ず指示通りに取り付けてください。

⚠️お車のフロントガラスにAM/FMラジオアンテナが内蔵されている場合は、干渉を避けるためアンテナが重ならないように貼り付けてください。

17 GPSアンテナコード 16 ワンセグ／FM VICS用フィルムアンテナ(右)

15 GPS用フィルムアンテナ(左)

コード配線時は、内装トリムを取り外します。(右側も同様)

19 FM VICSアンテナコード(右) 18 デジタルTVアンテナコード(右)

取り外し作業が困難な場合は、車のお買い上げ店や最寄りのディーラーにお問い合わせください。(作業工賃は、お客様にご負担いただく場合があります。)

アドバイス

16 ワンセグ／FM VICS用フィルムアンテナ(右) 15 GPS用フィルムアンテナ(左)

100mm～120mm 100mm～120mm

モール

車検証 検査証

フィルムアンテナは、車検証や検査証と重ならないように取付位置を決めてください。

車両外側からフロントガラスを見た図です。

1 フィルムアンテナの貼付位置を決める

①フロントガラスの外側にフィルムアンテナをあてる。

- フィルムアンテナのセパレータおよびフィルムシートをはがさないでください。
- 図は左側作業を表しています。右側も同様に作業を行ってください。

②フィルムアンテナの凹部の底辺を車両の※黒セラまたは※黒セラドットの最下端に合わせる。

- ※黒セラ：黒色セラミックラインの略。フロントガラス端の黒い色部分。
- ※黒セラドット：黒色セラミックドットパターンの略。フロントガラス端の黒色のドット部分。

③フィルムアンテナの左右方向をテープ等でマーキングする。

- モールから100mm～120mmの位置にマーキングしてください。
- テープはフロントガラスに跡形が残らないもの(ビニールテープ等)を使用してください。

15 GPS用フィルムアンテナ(左)

車両フロントガラス左側を外側から見た図です。右側も同様に作業を行ってください。

フィルムアンテナは、車検証や検査証と重ならないように取付位置を決めてください。

アドバイス

フィルムアンテナの端子ベースを黒セラまたは、黒セラドットの上に貼らないでください。黒セラまたは、黒セラドット部への貼り付け強度は、ガラス面より低下します。清掃時に、はがれないよう注意してください。

黒セラまたは黒セラドットの最下端にフィルムアンテナ上面の凹部を合わせる

100mm～120mm

モール

テープでマーキングする

2 フィルムアンテナを仮固定する

①青色タグシールを利用してフィルムアンテナからセパレータ(小)をはがす。

②フィルムアンテナを取り付ける前にフィルムアンテナ貼付部のフロントガラス面を付属のクリーナーで汚れ、水分、油分などをよく拭きとる。

③貼り付け位置に合わせ、フロントガラス(室内側)に仮固定する。

- 仮止め部分を布などでこすって固定してください。

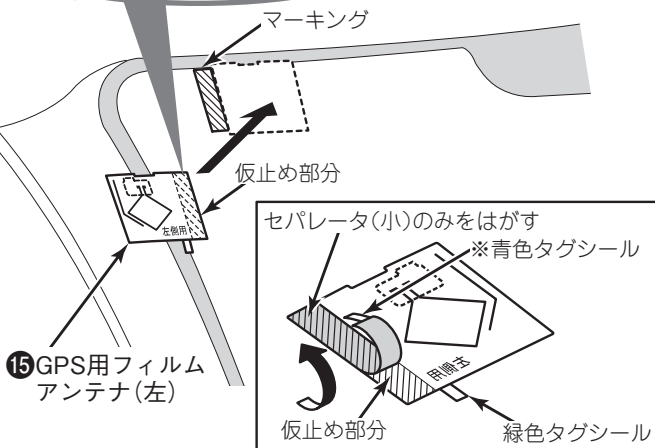


注意

セパレータ(大)：緑色タグシール側は、はがさないでください。フィルムアンテナの仮止めをする前にセパレータ(大)をはがすとフィルムアンテナを正しく貼ることができません。

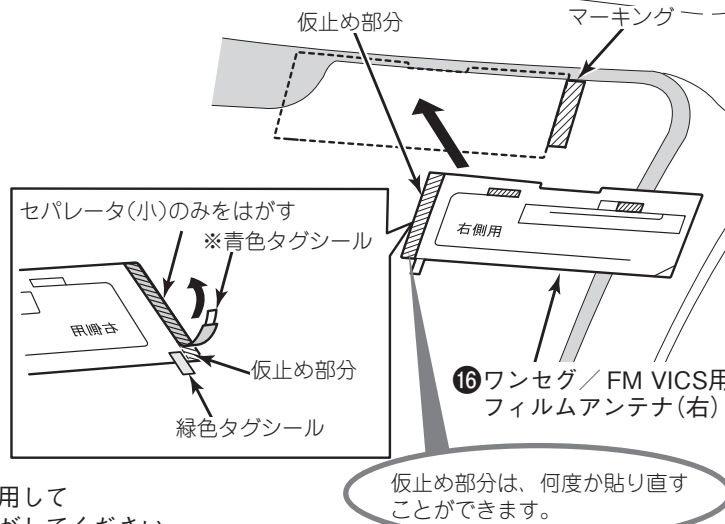
左側

仮止め部分は、何度か貼り直すことができます。



※青色タグシールを利用してセパレータ(小)をはがしてください。

右側



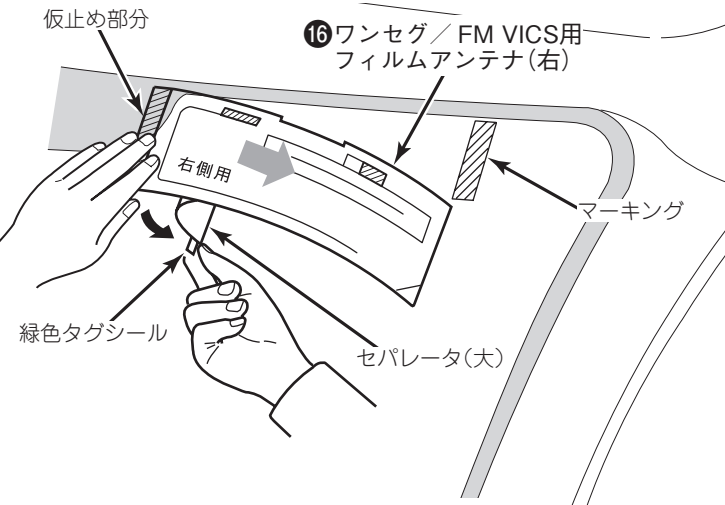
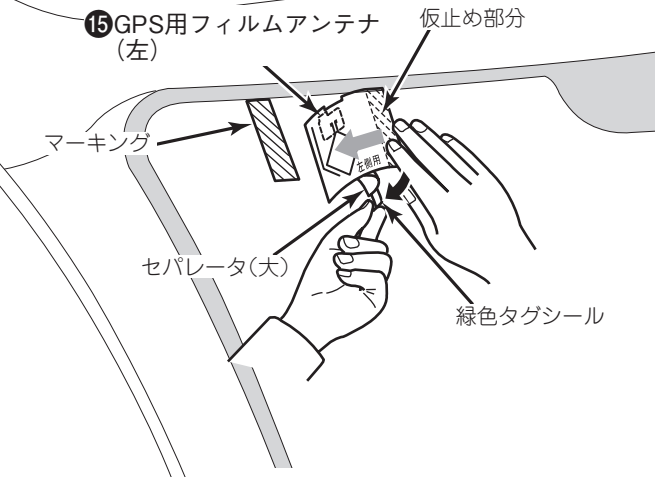
仮止め部分は、何度か貼り直すことができます。

3 フィルムアンテナをフロントガラスに貼り付ける

①緑色タグシールを利用してフィルムアンテナからセパレータ(大)をはがす。

- 仮止め部分を手で押さえながらセパレータ(大)をはがしてください。
- アンテナパターンがフィルムシートから浮かないようにセパレータ(大)をゆっくりはがしてください。
- セパレータ(大)を少しずつはがしながらフィルムアンテナをフロントガラスに貼り付けてください。

②フィルムアンテナをフロントガラスに貼り付ける。



4 アンテナパターン部を定着させる

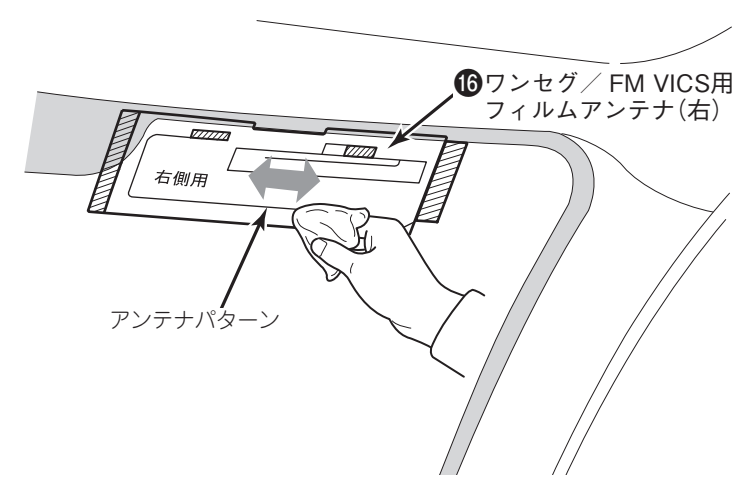
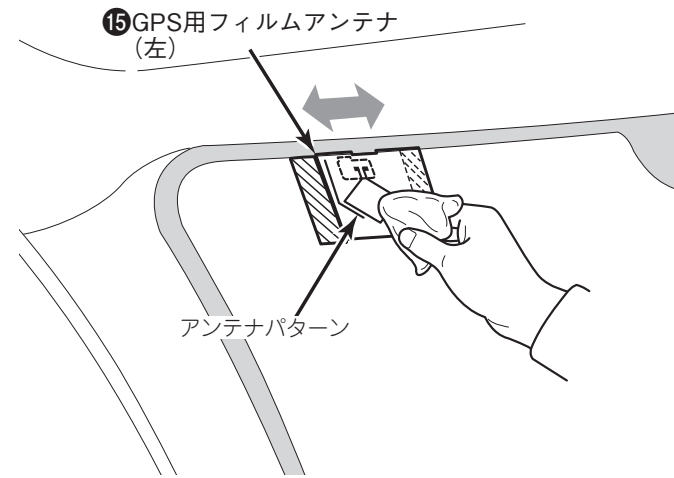
- ①フィルムアンテナのアンテナパターン部を布などでこすってガラス面に定着させる。

●シワや傷がつかないようにフィルムシートの上からアンテナパターン部を数回程度こすってください。



注意

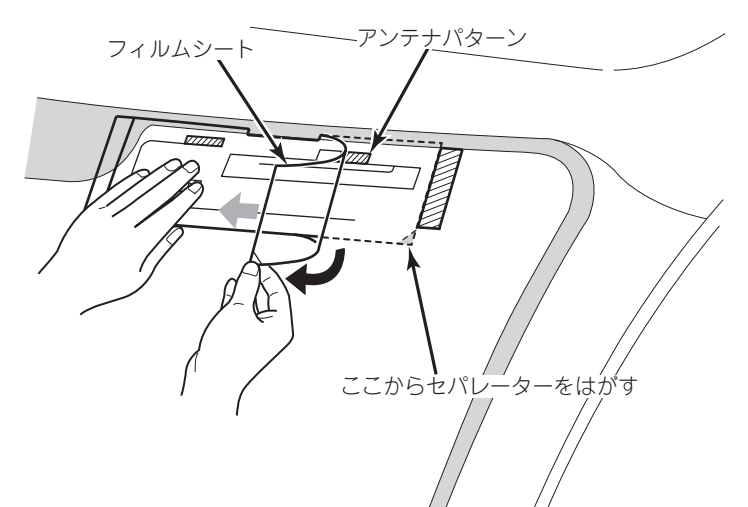
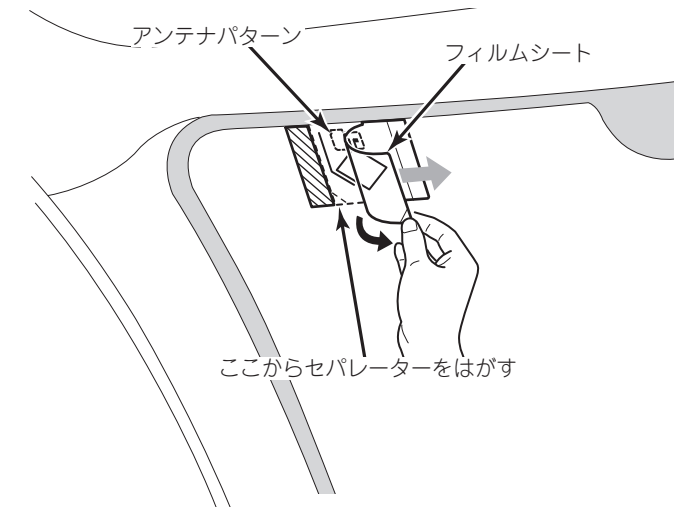
アンテナパターン部をこする際は、ヘラなど固いものを使用しないでください。
アンテナパターン部の破損の原因になります。



5 フィルムシートをはがす

- ①フィルムシートを角から180° 折り返すようにゆっくりと矢印方向にはがす。

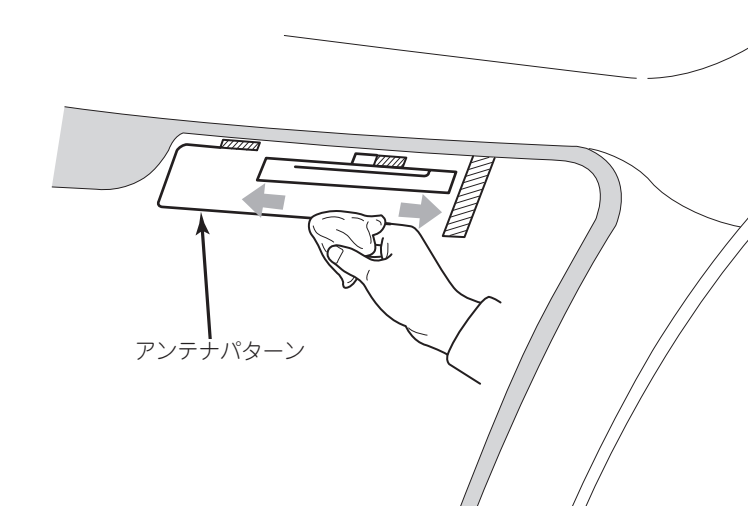
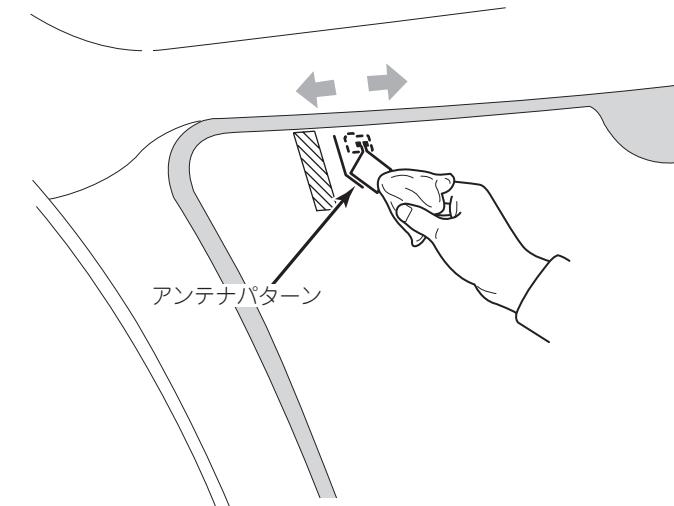
●アンテナパターンがセパレーター側に残る場合は、手順4からやり直してください。



6 アンテナパターンを定着させる

- ①アンテナパターンを布で押さえて、ガラス面にしっかりと定着させる。

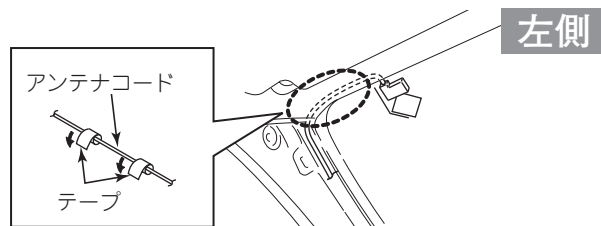
●アンテナパターンにシワや傷がつかないように注意して作業を行ってください。
●マーキングしたテープを取り外してください。



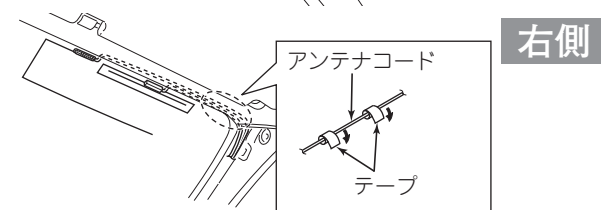
お願い

●アンテナコードを強く引っばたり、負荷をかけたりかみ込み等がないようにしてください。ルーフライニングからはみ出す場合は、テープを巻き付けてルーフライニング内に収めてください。

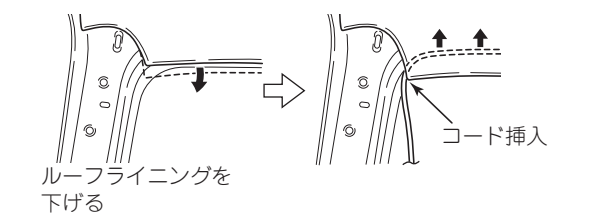
●ルーフライニングに無理な力を加えて折り曲がらないよう注意してください。



左側



右側



7 GPSアンテナコード、デジタルTVアンテナコード、FM VICSアンテナコードの給電部をフィルムアンテナの端子ベースに貼り付ける

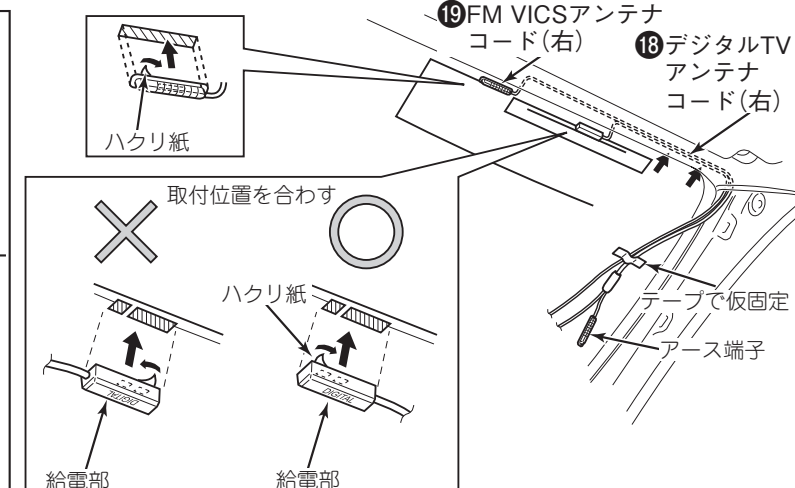
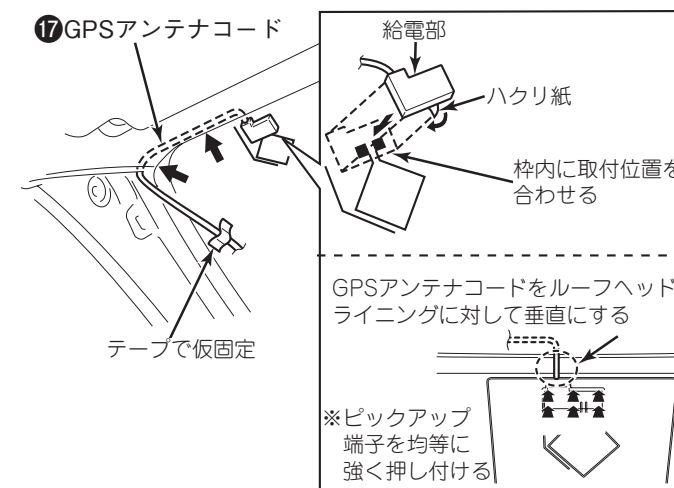
- ①GPSアンテナコード、デジタルTVアンテナコード、FM VICSアンテナコードをガラス面にテープで仮固定する。

●作業中のコードにかかる負担を軽減させるため、テープで仮固定してください。

- ②給電部をフィルムアンテナの端子ベース位置に合わせて貼り付ける。

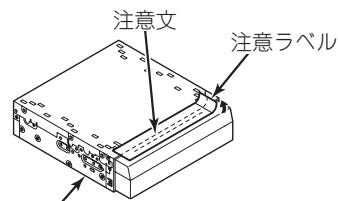
●デジタルTVアンテナコードを取り付ける際、左側から "DIGITAL" と読める向きに給電部を貼り付けてください。

- ③ルーフライニングの端の部分を少し下げ、コードをルーフライニング内に押し込む。



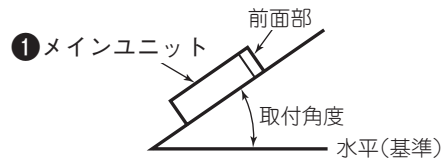
お願い

- メインユニットを取り付ける前に、必ず注意ラベルを取り外してください。
修理のためメインユニットを取り外す場合、破損防止のため注意ラベルを必ず貼り付けてください。



①メインユニット

- センターコンソールの形状によっては、シフトレバーなどに接触する場合があります。詳しくは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。
- 取付角度が大きな取付状態となる場合は、自転車位置ズレやディスクの出し入れ等が正常にできない場合がありますので、できるだけ水平になるように取り付けてください。

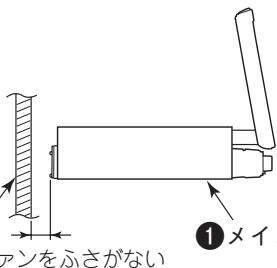
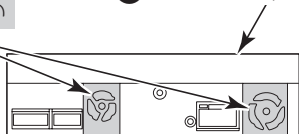


- 放熱用ファンをふさがないでください。

本製品は、従来製品と比べ製品の奥行き寸法が長いため放熱を妨げないようメインユニット取り付けの際は、背面のファンを車両ハーネス等でふさがないように注意してください。

放熱用ファンを
ふさがないでください

①メインユニットの背面

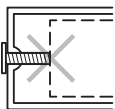


①メインユニット

ワイヤーハーネス等の障害物に注意してください

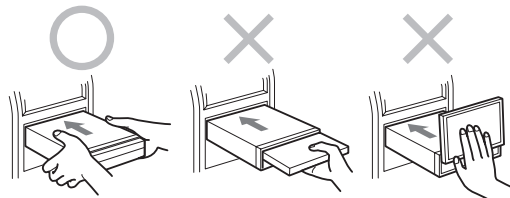
- 必ず付属のねじを使用してください。

取付ねじは、必ず付属のねじ(赤色/M4×6)を使用してください。指定以外のねじを使用すると機器の内部が損傷するおそれがあります。



- ディスプレイを手で押さえないでください。

車に取り付ける際、メインユニットのディスプレイ(表示部)やボタンを強く押さないでください。ディスプレイ(表示部)やボタンが破損する恐れがあります。



8 FM VICSアンテナコードの アース端子を貼り付ける

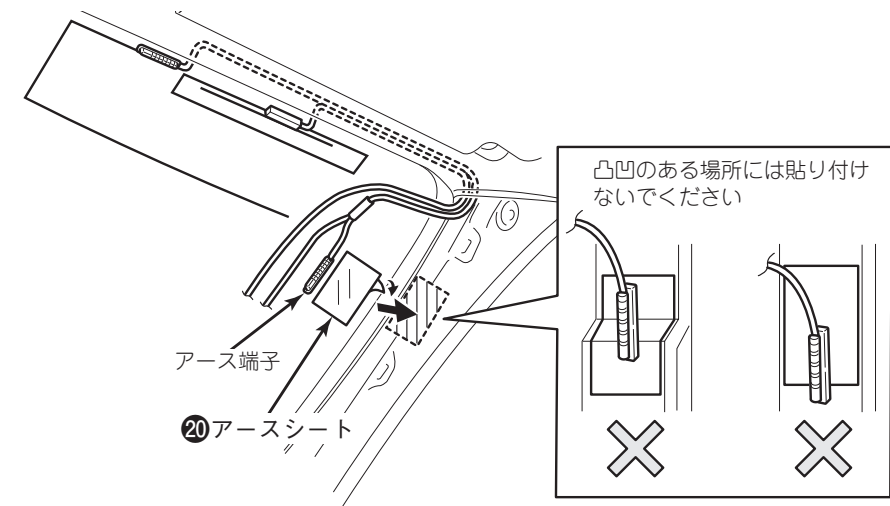
①FM VICSアンテナコードのアース端子が届く範囲内にアースシートを貼り付ける。

- 車両の平面な金属部分にアースシート全体を貼り付けてください。平面でない部分やクリップ穴部、ネジ穴部等へは貼り付けしないでください。
- ボディの塗装をはがさないでください。

②FM VICSアンテナコードのアース端子を貼り付ける。

- アース端子が、アースシートからはみ出したり、貼り付いていない部分がないようにしてください。

右側



9 GPSアンテナコード、デジタルTV アンテナコード、FM VICSアンテ ナコードを配線する

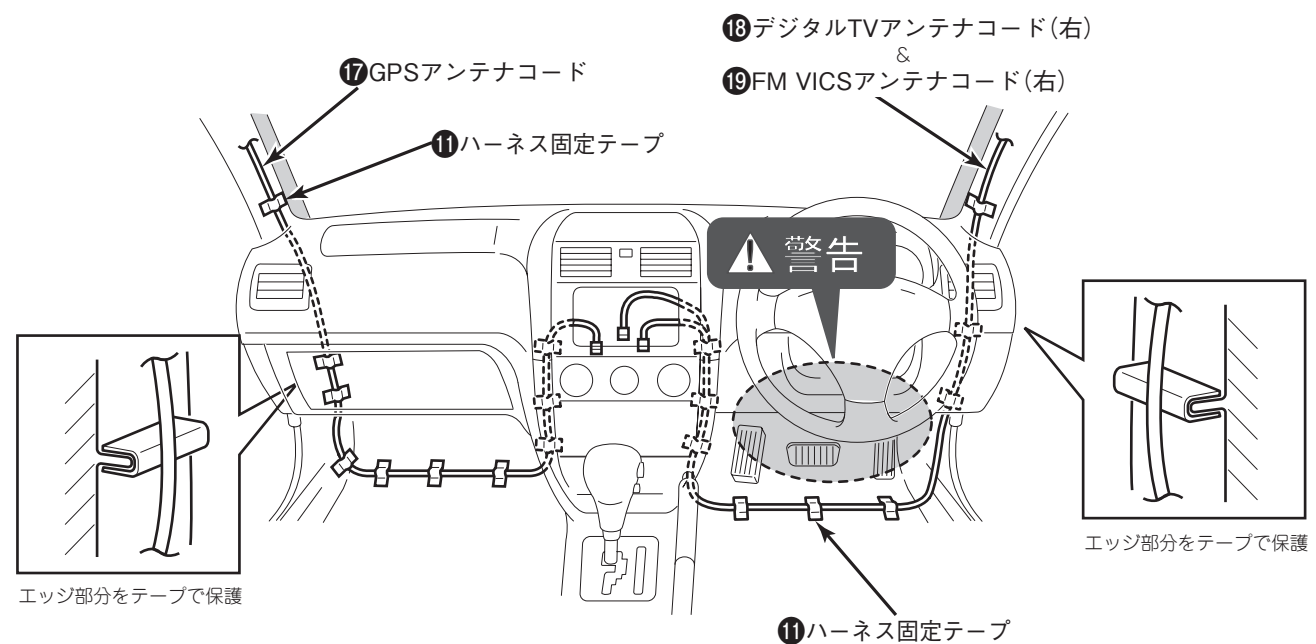
①GPSアンテナコード、デジタルTVアンテナコード、FM VICSアンテナコードをテープで固定しながらオーディオ取付位置まで配線する。

- 車両エッジ部を避けて配線してください。干渉する場合は、エッジ部分にテープを貼り付けてください。
- 車両内装トリムを復元した際、コードのかみ込みが無い事を確認してください。
- あまったコードをまとめるときは、メインユニットから30cm以上離してください。



警告

コード類は、運転操作の妨げとならないよう、テープ等でまとめておく。ステアリングやシフトレバー、ブレーキペダルなどに巻き付くと事故の原因となり危険です。



10 メインユニットを車に取り付ける

一 国産車の場合(例) 一

①車のオーディオ、小物入れなどを取り外す。

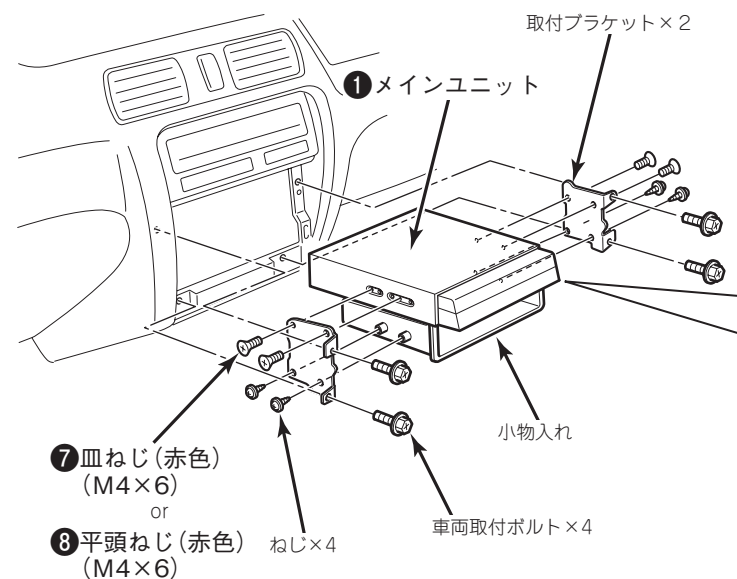
②オーディオ、小物入れなどを取り付けているブラケットを取り外す。

- オーディオの取り外し方、取り外すねじの位置や数、使用する取付ブラケットは、車種により異なります。詳しくは、お買い上げの販売店や自動車ディーラーにお問い合わせください。

③メインユニットにブラケットを取り付ける。

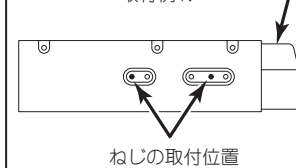
④メインユニットを車に取り付ける。

- メインユニットを取り付ける前に各コードを接続してください。



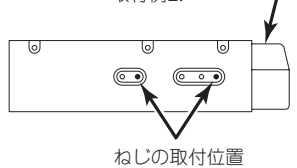
取付ブラケットのねじ穴形状に合わせてねじ取付位置を調節してください。

①メインユニット 取付例1.



ねじの取付位置

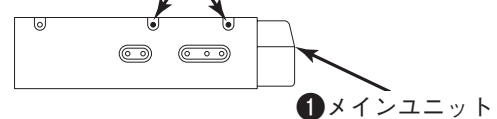
①メインユニット 取付例2.



ねじの取付位置

取付例3.

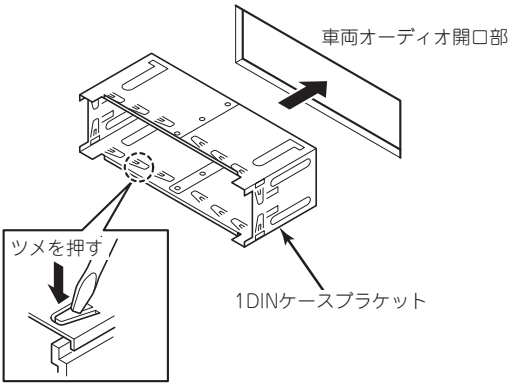
この取付用穴を使用する場合は、必ず⑨座金一体ねじ(青色)(M4×3)を使用してください。



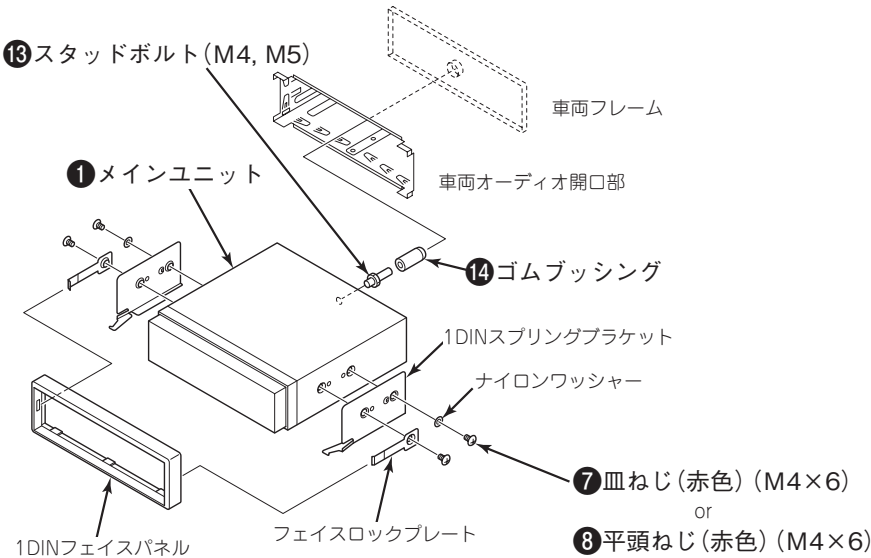
①メインユニット

—欧州車の場合(例)—

- 別売の欧州車用1DIN取付キットを使用します。
(車種によっては取付キットが使用できない車種もあります。)
- ①1DINケースブラケット(取付キットに付属)を車両に挿入する。
- ②1DINケースブラケット(取付キットに付属)のツメを曲げ固定する。
 - 1DINケースブラケット(取付キットに付属)を車両に取り付ける際、変形しない様に注意してください。



- ③メインユニットにスタッドボルトとゴムブッシングを取り付ける。
 - 必ずメインユニットに付属のスタッドボルトとゴムブッシングを使用してください。
- ④メインユニットに1DINスプリングブラケット、フェイスロックプレート(取付キットに付属)を取り付ける。
 - メインユニットに付属の皿ねじでスプリングブラケットが、固定できない場合は、取付キットに同梱されているナイロンワッシャーを使用してください。
- ⑤メインユニットを1DINケースブラケット(取付キットに付属)に左右2箇所が、ロックされるまで挿入する。
- ⑥1DINフェイスパネル裏側の溝2箇所フェイスロックプレートの先端フック部を差し込み固定する。



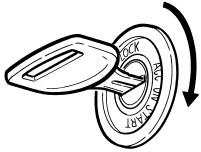
取り付け後の作動確認

お願い

- GPS受信感度
しばらく経ってもGPS受信感度の表示が変わらないときは、GPSアンテナの接続状態を確認してください。
- 車速パルス
SYSTEM CHECK画面で走行すると走行状態を確認することができます。表示が変わらないときは、車速パルスの接続状態を確認してください。
- パーキング信号
パーキングブレーキがかかっている場合、表示が“あり”に、パーキングブレーキがかかっていない場合、表示が“なし”に変わります。表示が変わらないときは、パーキングブレーキ信号の接続状態を確認してください。
- リバース信号
バックギヤ以外にシフトしている場合、表示が“なし”に、バックギヤにシフトしている場合、表示が“あり”に変わります。表示が変わらないときは、リバース信号の接続状態を確認してください。

1 車のエンジンをかけナビゲーション画面を表示させる

- ①ディスプレイをOPENする。
 - ナビゲーション画面が表示するまで、ACC OFFやメインユニットの操作はしないでください。
 - シフトポジションや周囲の安全を確かめてから車のエンジンをかけてください。



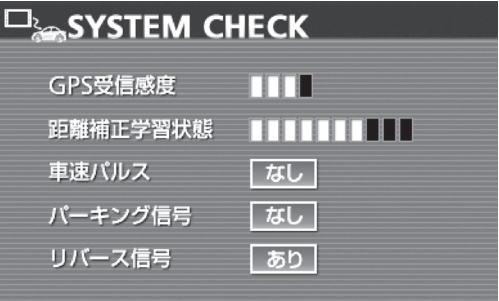
2 見通しの良い場所で各信号の接続状態を確認する

- ① **MENU** ボタンを押し、**INFO** にタッチする。
- ②INFO画面で **ページ切換** にタッチし、画面を切り換える。
- ③ **SYSTEM CHECK** にタッチし、それぞれの接続状態を確認する。

インフォメーション画面



システムチェック画面



システム接続例

接続する機器の取付説明書を確認して取り付けおよび配線を行ってからメインユニットに接続してください。

●車両電源ハーネスとの接続には別売の車種別変換コードが必要です。詳しくは、お買い上げの販売店や自動車ディーラーにお問い合わせください。接続可能な外部機器、及びコードについては、イクリプスのサポートページ(<http://www.fujitsu-ten.co.jp/eclipse/support/>)をご確認ください。

- iPod は、米国およびその他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
- iPod および iTunesは、著作権のないマテリアル、または法的に複製・再生を許諾されたマテリアルを個人が私的に複製・再生するために使用許諾されるものです。著作権の侵害は法律上禁止されています。

